

## 地域資源を活用した園芸科の取り組み

令和5年度「魅力ある県立学校づくり大賞」特別賞

千葉県立下総高等学校

本校は、下総台地のほぼ中央にある成田市に位置し、今年で124年目を迎えた「園芸科」「自動車科」「情報処理科」の3学科からなる県内唯一の総合専門高校です。昭和41年に、自営者養成農業学校として文部省の指定を受け、現在でも園芸科1年生を対象に義務入寮を行っている県内で唯一寮のある公立高校です。「ものづくり・人づくり・夢づくり」を学校教育目標に、規則正しい共同生活を通し職業人としての資質・能力を育む教育活動に取り組んでいます。

本校は、ユネスコスクールに加盟しており、園芸科では日頃からSDGsの実践を視野に入れて活動しています。今回、園芸科野菜専攻の生徒を中心に地域資源の利用をテーマに大きく分けて2つの取り組みを進めました。

1つ目は、特定外来生物「チャンネルキャットフィッシュ」を利用した野菜栽培の実践です。本校から北へ2キロほどの場所にある利根川では近年、「チャンネルキャットフィッシュ」通称アメリカナマズが大繁殖、緊急対策外来種として扱われています。本校では、印旛沼漁業協同組合の協力を得て学習を深め、地域で困っているこのチャンネルキャットフィッシュを原料にした有機液肥の培養に成功しました。液肥を使って栽培した野菜は、近隣地域での移動販売の他、学校近くにある「直売所しもふさ」での販売も行いました。「直売所しもふさ」では、「しもこうエコ野菜」として特設コーナーで販売し、メロンの販売では、ChannelCatFish「CCF（シーシーエフ）メロン」としてブランド化を図り、地域で困っている資源を使い、微力ながらも地域の活性化に貢献することができました。



2つ目は、成田国際空港との連携です。成田市内にある成田国際空港では現在、第3滑走路（C滑走路）の造成工事が行われています。工事では、大量の樹木の伐採が行われその処理が課題とされており、本校では排出された樹木チップを野菜栽培に利用、堆肥化を図っています。栽培した野菜の販売は学校前で行い、多くの近所の方が購入してくださいました。また、成田国際空港株式会社の方を本校農場に招き、樹木チップの活用状況を報告、栽培したメロンの試食をしていただきました。



さらに、各種販売会やイベントでは、取組についてパネル展示を行い、生徒による解説を行いました。特に、チャンネルキャットフィッシュの駆除を目的とした小見川アメリカナマズ釣り大会では、大会参加者の方々から「すごい取り組みだね」「応援しているよ」などと声をかけてもらうことができました。

関係機関からは、「外来魚から有機液肥ができることに驚いた」「ぜひ漁協前で栽培した野菜の販売会や外来魚の農業利用についてPRを行ってほしい」「堂々と取り組みを説明する生徒さんの姿に驚いた」「今後、空港の社員食堂に下総高校の野菜を提供してほしい」などの声がありました。活動を行った生徒からは「この活動を通し、自信と誇りを持つことができた」「後輩たちに繋げられるように精力的に続けていきたい」などの声が聞かれました。

全体を通した成果として、外来生物由来の液肥と樹木チップを併用した野菜の栽培から販売までの流れを確立することができました。また、令和5年7月26日に行われた、第72回千葉県学校農業クラブ連盟研究発表大会プロジェクト発表分野Ⅱ類（開発・保全・創造）の部では、「外来魚を利用したメロン栽培」を発表題目とし、2位を受賞することができ、今後の活動への自信を得ることができました。

今後もこの一連の活動を継続して行うとともに関係機関とのさらなる連携強化を目指し、地域に根差した魅力ある学校づくりを積極的に取り組んでまいります。